科目名	哲学	講師	非常勤講師
履修時期	1年　前期	単位数	1
		時間	15

＜科目設定理由＞

人間は、生まれてから死に至るまでの過程でさまざまな経験をする。人間が経験する出来事を、常識や既存の考え方に拠らず捉え直すことは、人間の存在価値や価値についての理解を深めることにつながる。このように人間が生きていく過程で生じる事象の本質を洞察し、意味づけるための考え方を探るものとして哲学は存在する。したがって、生じている事象・出来事を認識し、じっくり考えることが大切である。

看護は、人間にとって避けることのできない「生老病死」に直接関わる職業である。「生老病死」は人間にとって自己の存在を大きく揺るがす出来事である。そのため看護者には、対象が経験していることの意味を深く考えることが必要であり、人間を多角的に捉える視点をもつことが求められる。深く思考すること、多角的な視点をもつことの重要性を理解し、人間理解の基礎として哲学を学ぶ。

学習目標	①　人間存在の意味や価値について哲学的思考から考察できる。 ②　多角的に人間を理解し、看護に生かすための基礎理論を身につける。
学習内容	1. 古代ギリシア人の世界観と医神アスクレピオス 2. 世界の四大元素とヒポクラテスの四体液説 3. ソクラテスの「魂のケア」 4. プラトンとアリストテレスの哲学 5. 中世のキリスト教哲学とホスピスの起源 6. デカルト「我思う、ゆえに我あり」 7. ジョン・ロックの人間悟性論 終講試験（45分）
授業形態	講義・グループワーク
評価方法および評価の観点	平常点（出席状況、課題等）および終講試験により総合的に判断し評価する。終講試験は論文形式とする。
テキスト	遠山茂樹『歴史の中の植物』（八坂書房、2019年）ISBN 978-4-89694-265-1
参考資料・図書	教室で適宜、紹介する。
履修上の留意事項・受講条件	この授業ではテキストに掲載されているヨーロッパの絵画資料も活用するので、テキストは毎回持参すること。また、折を見て「生きるとは何か」といったテーマで、グループワークも行う。